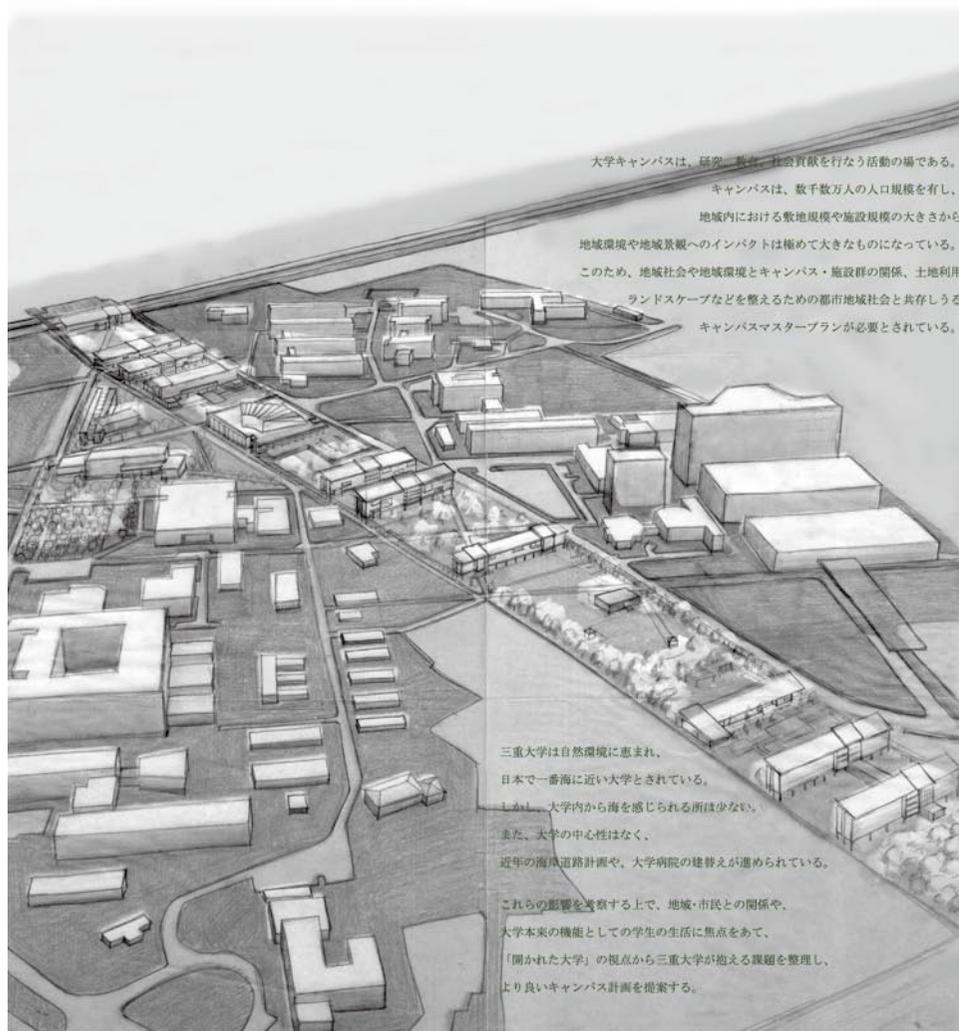


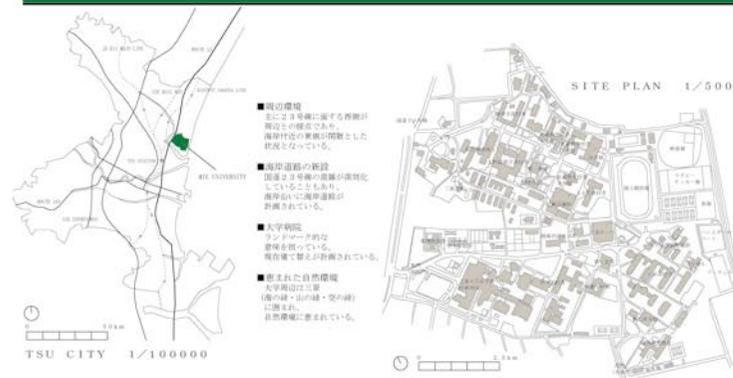
# OBI - 海×大学×ひと -

403705 YURIKO IMAI  
403727 NAOMI HASEGAWA



## PROCESS

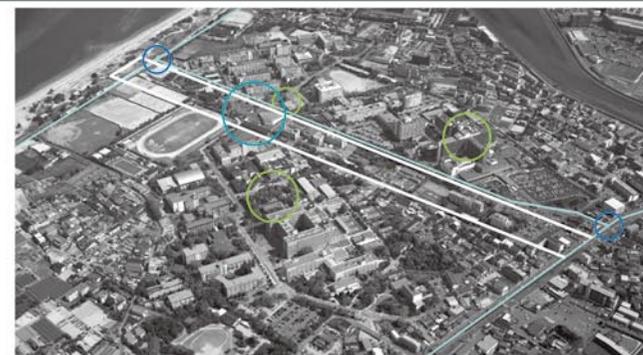
### The Present Condition



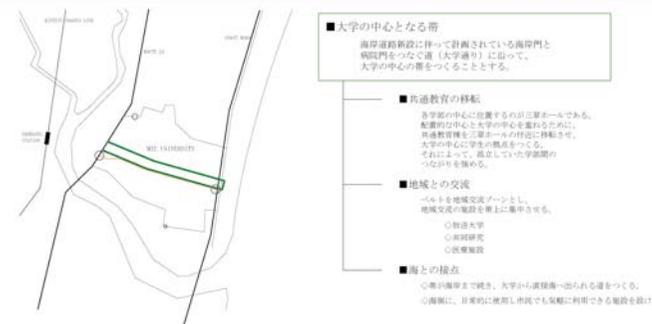
## Problems



## Proposal



## Campus Master Plan



Flow

# OBI

—海×大学×ひと—

## Problems

- 中心の不明瞭さ
    - 大学の中心のズレ
    - 大学の中心に集つた三原ホール
    - ランドマークとしての大学病院
  - 分断された校内道路
    - 孤立した3つの門
    - 縦型のアプローチ
    - 車止め
  - 学部間のつながりの弱さ
    - 各部の孤立
    - 各部の異なる軸
  - 視線が通らない
    - 建物や木々による視線の遮り
    - キャンパス・ストリートが閉鎖
- これらを踏まえて、新たなキャンパスプランを提案する



## Proposal

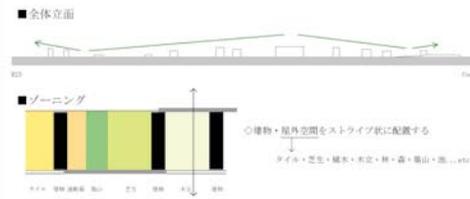
- キャンパスの中心の創出
  - 新たなキャンパスに、一体感を出すために、明確な中心を定めることが必要であり、キャンパスを軸とした具体化を図ることが可能になる
  - この中心は大学の歴史となりランドマークとなる。学生、教員、地域住民との交流の場となり、強化できると考えられる
- 大学と地域とのつながり
  - 病院側からだけだった市街の大学のアプローチが、両側の歩道により、両方になり、大学と地域とのつながりも強化できると考えられる
- 海への意識
  - 海への視線を確保し、風通しを良くし、開放的な環境を創出することで、海とのつながりを強化できる

## Flow



## Design Code

### Belt



### 建物

- ストライプ
  - 配置：垂直に並列にして、幅広いに配置する。
  - 3枚におろし、真ん中は吹き抜けの廊下とする。
  - ストライプのポイントとして、1階に、サインとなるガラス張りの特ランスレーを設ける。
- 海面を感じさせる・海への方向性
  - ピロティを基本とする。
  - 抜け
    - 海への方向性・つながりを作る。
  - 出っ張り・引っ込み
    - 建物の両方をあいまいにする事によって、中間領域をつくり、建物と屋外の境界を曖昧にする。
  - 屋根：片流れにして海への方向性をつくる。真ん中の吹き抜けの廊下を風の抜け易くする。
  - 窓を横められるガラスを設ける。
- 素材
  - 壁面：打ち筋コンクリート+ガラス+ルーバー
  - 歩道：デッキと屋根

### Zone

- ◆ 学部ゾーン
  - 対象施設：共通教育棟+図書館+数理工学棟+工学部
  - 構成：3枚で構成されている建物の海側の面には、デッキまたは小さな露臺を併せて設置する。
  - 海への視界を遮ることを抑え、海を感じやすくさせる。中継ぎで強いイメージの講義棟に、光風を取り込む。
- ◆ 共同研究ゾーン
  - 対象施設：機能分析施設+遺伝子実験施設
  - 構成：ガラスや吹き抜けを多く設ける。中継ぎで強いイメージの実験施設に光を取り込み、海からの風を感じられるようにする。ガラスやガラスファシオコーナーを多く設ける。企業との持ち合わせ、小会議・休憩に利用することが出来る。
- ◆ 医療・福祉ゾーン
  - 対象施設：病児保育所+薬局+郵便局
  - 構成：トランスの位置・向きは、病院からのアクセスに配慮する。1階に機能またはガラスを設ける。気候に合わせることができ、高齢者や障害者にも利用されやすくなる。



共通教育1号館 一般教養講義室・学生共用ラウンジ

◆共通教育ゾーン

対象施設：共通教育1号館 共通教育2号館  
課外活動棟 第二食堂・学庁

○共通教育の核

三翼ホースに設置する人文学部を視座の共通教育棟に移動させ、共通教育棟を三翼ホース北端から大学の中心となるベルトに於いて移動させる

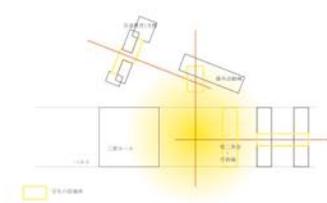
大学の中心となるベルトに設けることで、一般への講義を貸し出し、利用を容易にする

学生の生活の拠点となる施設を揃え、学生の多様な利用形態にに対応することで、学芸は授業時間以外にも大学にとどまり、過ごすことができる → 学生の居場所

○学生の居場所

学生が毎日を通りかかると、重要な機能を三翼ホース周辺に集め、学生の居場所としての性格を強めた

共通教育ゾーンの各建物に利用形態の異なる共用ラウンジを設けた



面積	
共通教育1号館	3400㎡
共通教育2号館	2300㎡
課外活動棟	2000㎡

○文系専門学部ゾーンと大学の中心となるベルトをつなぐ

共通教育棟のため、文系の専門学部ゾーンと学生の生活の拠点である共通教育ゾーン中心の距離を遠くする  
共通教育1号館は、この2つの場所をつなげることを目的とする

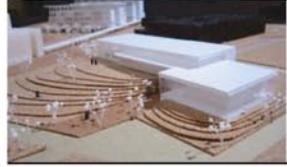
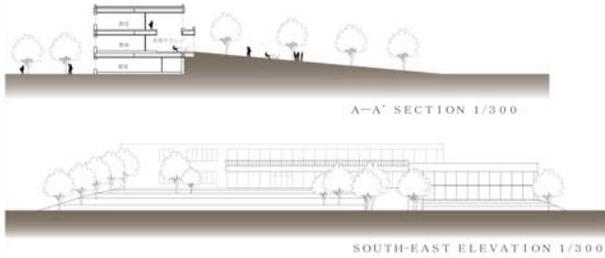
○学生の居場所

ここでは学生の居場所を建物の中心から外部との中間領域である敷地前と吹き抜けに共用ラウンジを設ける  
学生の生活利用形態に合わせたラウンジには授業後の短い時間での利用を想定し、入り口付近のラウンジは授業後など長期間の滞在を対象とする

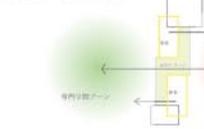
○従来の講義棟への提案

現在の共通教育講義棟は中継下階で、階層には学生の居場所が設けられているため、狭く、暗いイメージ外に於いて閉鎖的で、外部との間に隔り、内部の動きが感じられない  
※共通教育棟の吹き抜けラウンジ  
工学部校舎側のラウンジ

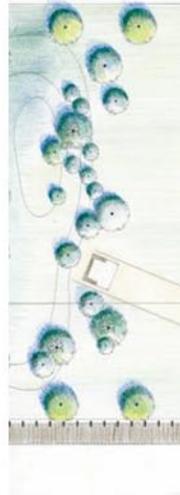
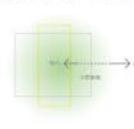
屋外と屋内の間にガラス張りの空間や半屋外空間など中間領域を設けることで、内外の境界をおぼろげにし、建物での流動を感じられるようにする



○2つのゾーンをつなげる



○段階的につなげるにつなげる



### 課外活動棟

クラブハウス・学生共同ラウンジ

#### ◇大学の中心の創出

三環ホールと第2食堂・学館に挟まれた広場は学内で最も学生の集まる場所。文系学館ゾーンの軸と大学の中心となるペーパの軸を敷き込み、そこを学生の生活の拠点とする。広場は課外活動棟、三環ホール、第2食堂・学館で囲まれ、落ち着きを持ちながら学生でにぎわう空間になる。

#### ◇学生の居場所

学生の自由な課外活動の拠点となるこの施設では自習室や休日など、学生の利用したい時間ご自由に利用できる空間を提供する。  
学生の多様な利用形態に合わせて室内を変更できるように、大きな共用ラウンジを設け、学生の自由にレイアウトできるようにする。  
共用ラウンジは大学の中心となるペーパの軸にあわせて設けられており、三環ホール前広場と一体に学生の居場所としての利用する空間になっている。

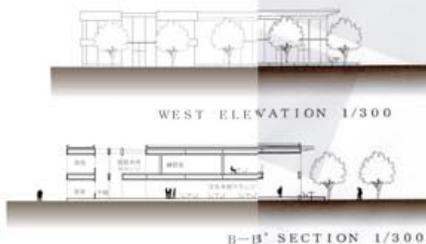
#### ◇クラブハウス

複座、部活動の拠点はなく、学内にまばらに分けており、部活動への認識が薄い。プレハブや、利用されていない建物を改装して利用しているが、建物の老朽化により汚く、使いにくい。

↓  
教室を集め、部活動の拠点をつくることで、各部活動の交流を促すと共に、一般学生の居場所と合わせて設けることで、多様な利用形態をもつ学生に対応する。



2nd FLOOR PLAN 1/300

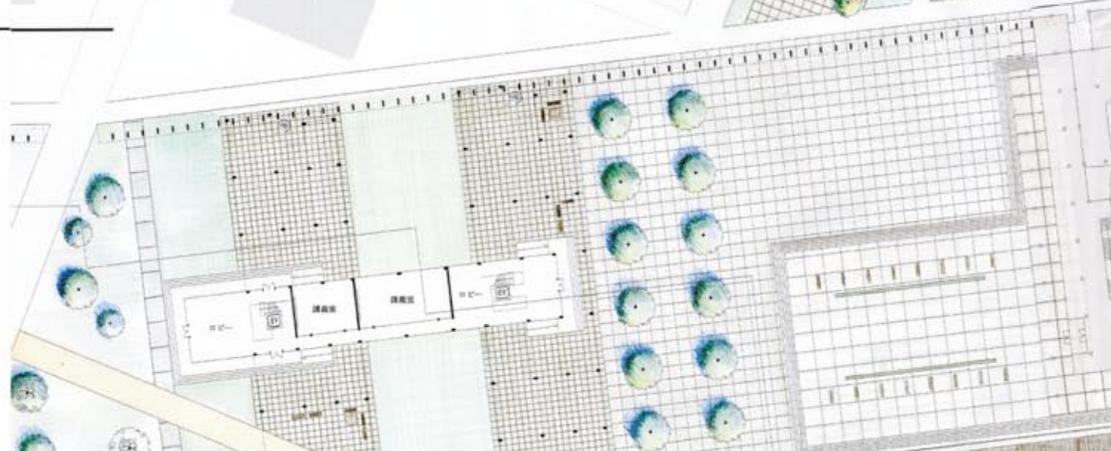
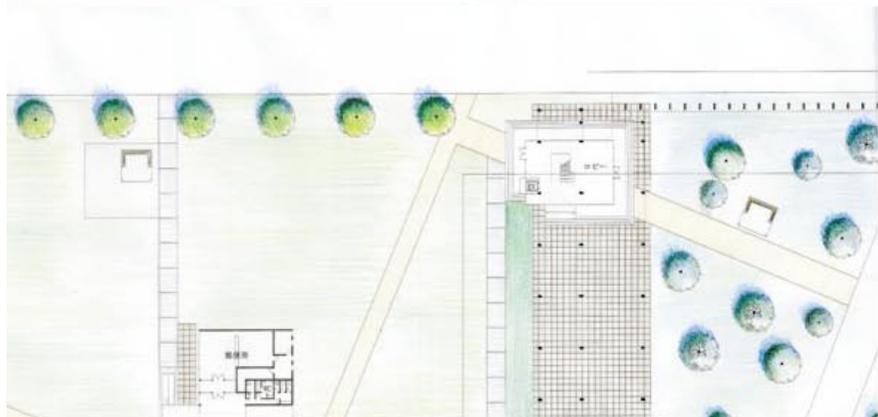
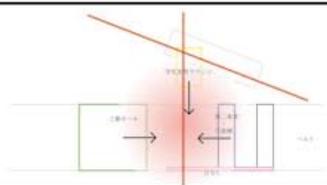


WEST ELEVATION 1/300

B-B' SECTION 1/300



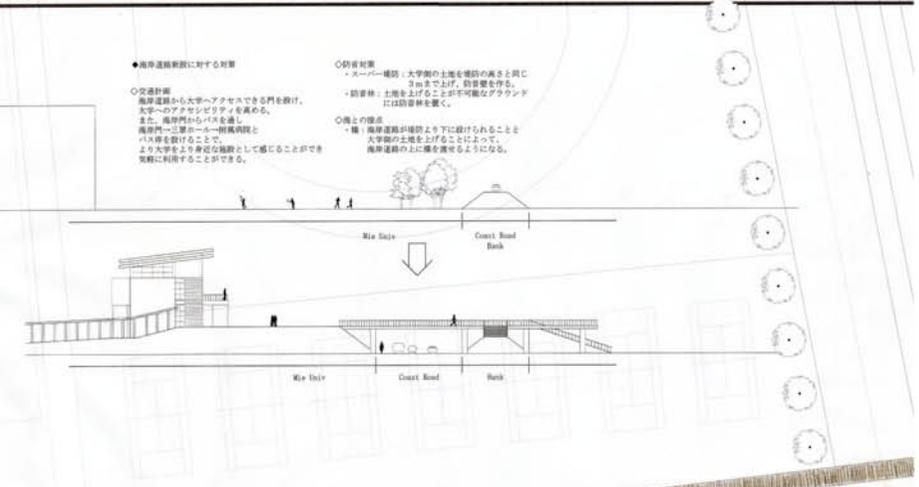
SOUTH-WEST ELEVATION 1/300





### 海岸道路

- 海岸道路新設に対する対策
  - 交通計画  
海岸道路から大学へアクセスできる門を設け、大学へのランドマークにする。また、海岸門から河川を渡し、高野村へは第一号橋（第一号橋）を架け、河川を渡ることで、より大学をより身近な施設として感じることができ、発展に利用することができる。
- 自然対策
  - ・スロープ緩和：大学側の土地を堤防の高さと同じ 3mまで上げ、防波壁を作る。
  - ・防波林：土地を上げることでも防波壁の代わりに防波林を築く。
  - 橋との関係
    - ・橋：海岸道路が堤防より下に設けられることにより、大学側の土地を上げることによって、海岸道路の上に橋を渡せるようになる。



---

# OBI ー海×大学×ひとー



